

前回までの圏域会議における委員からの主な提案等のまとめ

委員からの主な提案等の集約
～今後取組が必要なこと～

令和4年6月開催

○道の駅の客層がコロナ禍で変わり、家族連れ、シニア夫婦が主となった。こういった層にゆっくり周遊してもらう滞在型観光を進めていければ。

○宿泊客の中で、旧奥州街道を東京から歩いてきている人が結構いる。仙台から一関に抜けるのに宿泊場所として築館がちょうどよい。サイクリングも同様。こういった宿泊需要を捉え、少しでも長く滞在してもらう工夫を。

○旧奥州街道を活かした取組、栗駒山ブランド（養殖イワナ発祥など）の推進はできないか。

○地域での小さな連携の取組が非常に大事で、そこから広がりが出てくる。「栗駒山麓のめぐみ」も様々な物販イベントに出店し、PRしている。

○圏域の連携推進体制において、圏域会議のように情報共有する機会を設け、同じ方向を向いて進んでいければ良い。

○ヴィーガンやハラールについて、栗原で受け皿となるお店（メニュー）を整えていく必要がある。

令和6年1月開催

○酒蔵見学は観光資源となりうる。インバウンド客にも好評。

○「駅長おすすめの小さな旅」という駅を基点とする徒歩での旅を企画し、問い合わせが多い。他の交通手段も含めた地域全体で連携し情報発信していけるとよい。

○通過型の観光が課題であり、隣県も含めた広域連携による滞在型観光の推進が重要。

○隣接する岩手県と県境を越えた交流を図りたい。栗駒山の紅葉時期に、存在を知られておらず商店街に立ち寄ってもらえない。繰り返し栗原の存在をアピールする仕組みが大切。
地元の高校生と既存の地場産品等を活用した新たな名物づくりに取り組んでいる。

○インバウンド受入環境（食べ物、決済対応、多言語化など）の充実に入力することが前提。
その上で、インバウンドや既に日本に住んでいる外国人の方に楽しんでもらえる観光地づくりに取り組む必要がある。

令和6年8月開催

○県内観光客の大半が日帰りという現状があるため、宿泊し、長期滞在してもらえるような取組が必要。インバウンドに力を入れた方が滞在宿泊数が増えるのではないかと。

○栗駒山の登山の需要は年間を通じてあり、そうした需要をとらえて、長期滞在してもらえるような取組を進めてはどうか。登山客を案内できるガイドの育成も重要。

○八幡平では、「みちのくアドベンチャーラリー」という、普段は走れない道も含めてオートバイで走ることができるイベントが人気。こうした「普通はできない、ここでしかできない経験」を提供できると良い。
ニッチ層をねらった、山を使ったコンテンツも良いと思う。そういう層の人達は朝が早いので、宿泊、キャンプする人が多い。近くの温泉、飲食店も使ってもらえ、お金も使ってもらえるのでは。

○広域連携も重要であり、世界遺産の平泉や仙台などを訪れた観光客に栗原を訪れてもらうような仕掛けづくりが必要。また、県内および近隣のDMOと連携し、戦略的に取り組むことができれば良い。

○インバウンドに対して「宮城県」が認知されていないのが課題。インバウンドへのプロモーションが不足しており、情報発信が重要。
海外向けに販売する日本酒の瓶のラベル等を活用して「宮城県」や「栗原」をPRしてはどうか。

○インクルーシブツーリズムの推進について、ベジタリアンやハラールなど「食」の対応強化や宿泊施設の整備などを含め、県の取組として方向性を出すことができれば良い。

地域資源の活用等による滞在型観光の推進

- ・栗駒山登山や旧奥州街道歩きなど、栗原での宿泊につながる観光需要を捉え、日帰り、通過型観光から宿泊型観光への転換を図る
- ・酒蔵見学などの観光資源の再評価と磨き上げの取組や、栗駒山などを活用した「ここでしかできない体験」を提供できるコンテンツの造成
- ・栗駒山の紅葉時期に訪れる登山客に対する岩ヶ崎や花山地区などへの誘客促進の取組
- ・道の駅等の観光施設を訪れる家族連れ、シニア層などの客層を捉え、域内でゆっくり過ごしてもらう滞在型観光の推進
- ・栗駒山の魅力を登山客に伝え、案内できるガイドの育成

インバウンドを視野に入れた観光客の受入環境整備

- ・インバウンドに対する栗原地域の認知度向上に向けたプロモーションの促進や輸出される地元の商品を活用したPRの取組
- ・インクルーシブツーリズムの推進
- ・ベジタリアン、ヴィーガン、ハラール等「食」の多様性への対応を推進し、主にインバウンドの受け皿となる店やメニューの充実を図る取組
- ・宿泊施設における個室、シャワー等の対応、キャッシュレス決済、多言語表記等の対応を進め、インバウンドの受入環境の充実を図る
- ・栗原ならではの日本文化体験やおもてなしについて再認識し、外国人観光客への訴求を図るとともに、日本在住の外国人にも楽しんでもらえるような観光地づくりの取組

広域連携の取組の強化

- ・東北の有名観光地に挟まれ、通過されてしまう圏域の現状を打開するため、隣県を含む広域的な連携促進による平泉、仙台等を訪れる観光客を栗原へ誘客する取組の推進
- ・県内および近隣のDMOとの連携について検討し、広域のメリットを活かした戦略的な誘客の取組